

# わくわく 子育て夢プラン

江南市次世代育成支援行動計画  
後期計画（平成22年度～平成26年度）

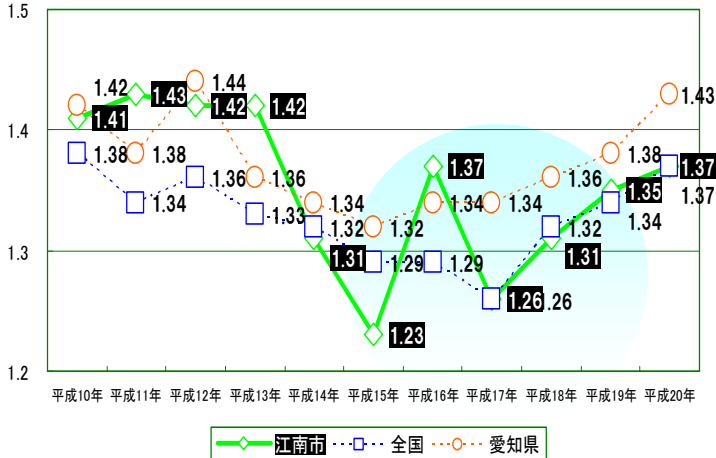


平成22年3月  
江南市

# 次世代育成支援とは？

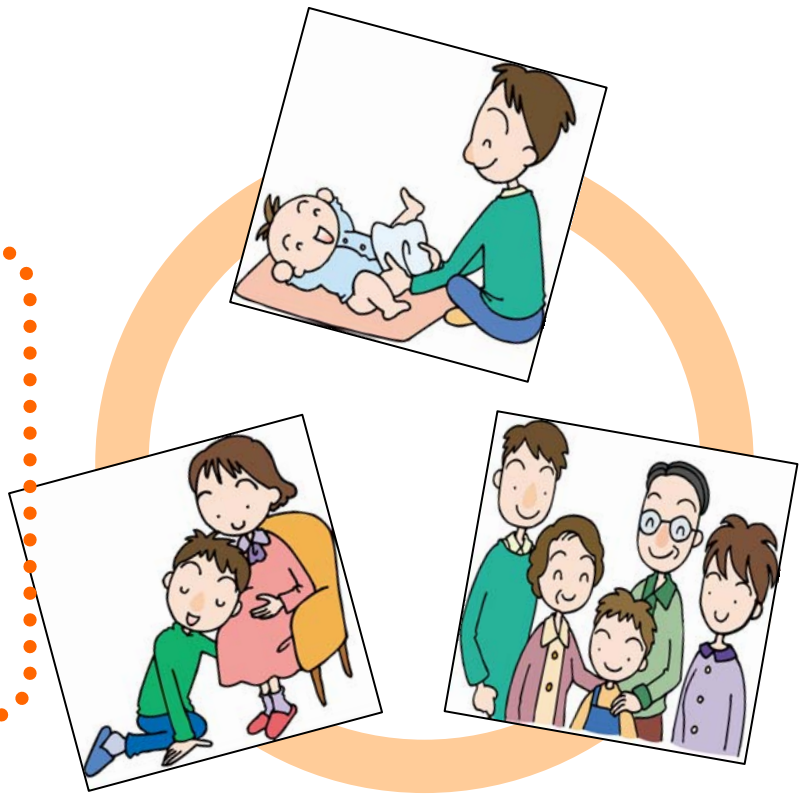


● 合計特殊出生率の推移



日本では、依然として少子高齢化が進んでいます。これを受けて、国は平成15年に「次世代育成支援対策推進法」を制定し、地方公共団体や企業に対して、集中的・計画的な取り組みを促進する行動計画の策定が義務付けられました。

その後、平成16年に発表された「子ども・子育て応援プラン」に基づき、若者の自立や働き方の見直し、地域の子育て支援などの総合的な取り組みが進められ、平成19年には、「子どもと家族を応援する日本」重点戦略が取りまとめられ、就労と出産・子育ての二者択一の状況を解消し、そのための環境を整備することが重要であるとする方針を打ち出しました。



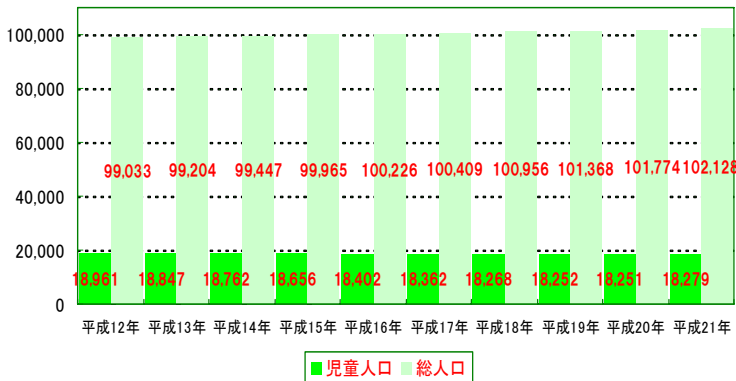
① つまり、次世代育成支援とは、

子どもの権利を守ることを第一とし、少子化に対する様々な取り組みも含め、市民の皆さんが安心して子どもを生み育てることができる「子育てしやすいまち」づくりを進めることなのです。

# 江南市の現状は？



(人)

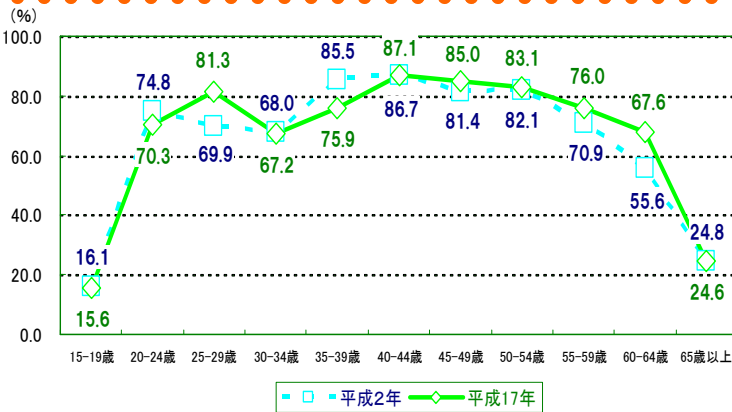
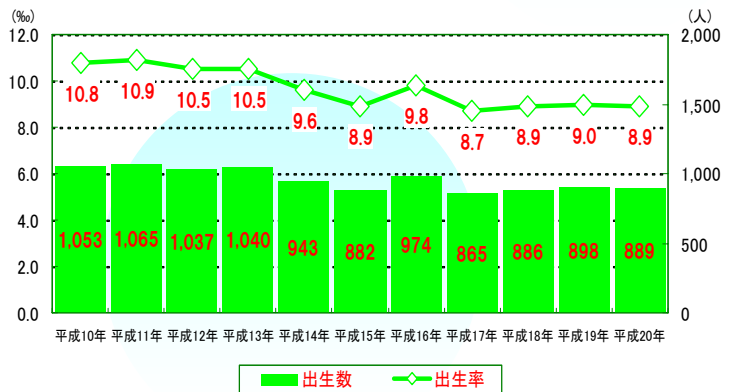


## ● 児童人口と総人口の推移

人口は少しずつではありますが、年々増加しています。しかし、それに反して、児童人口（18歳未満児人口）は年々減少しています。

## ● 出生数

出生数及び出生率は、年々減少傾向にありましたが、平成17年から少しずつ増加しています。

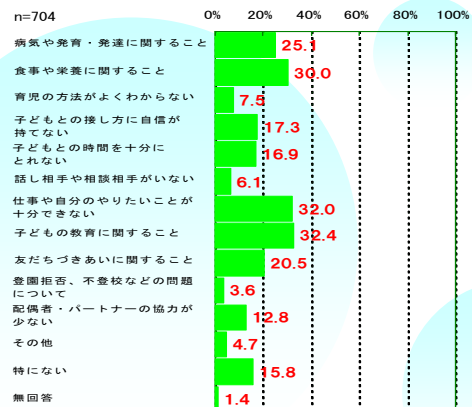


## ● 女性の年齢別就業率

女性の就業率は、25歳～29歳で大きくなり、30歳～34歳で落ち込んだ後、40歳～44歳で最大になるというM字型の労働曲線を描いています。

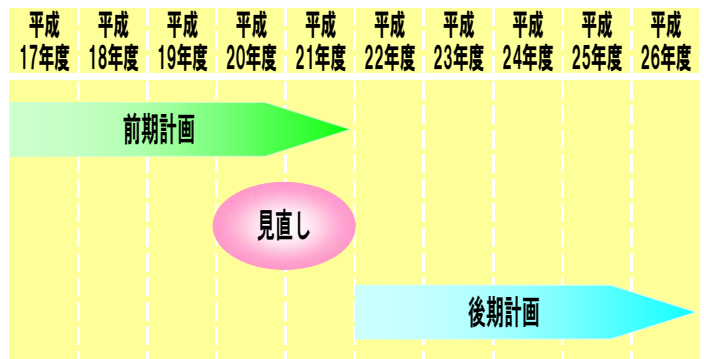
## ● 子育てに関する悩みごと

就学前児童を持つ母親の子育てに関する悩みごとで多かったのは、子どもの教育に関することや、仕事や自分のやりたいことが十分できない、食事や栄養に関することなどとなっています。



# 後期計画ではどう変わるの？

江南市でも、多様化する子育てニーズに対応した「目標達成のための行動計画」として、平成 17 年度から平成 21 年度までの 5 年間で第 1 期とした「次世代育成支援行動計画（前期計画）」を作成し、様々な取り組みを行ってきました。



❗後期計画では、

前期計画を改めて見直し、更に時代の変化に柔軟に対応できるよう、市民の皆さんが安心して子どもを産み育てることができる「子育てしやすいまち」にするため、総合的かつ計画的に子育てを支援する施策を推進していきます。

❗基本理念と基本的な視点については、前期計画のまま設定します。

## 基本理念

# 共に育ち、育てあうまちづくり

子どもたち自身の「育つ力（子育て力）」と親の「育てる力（子育て力）」は、家庭や地域の人たちとの関係やつながりの中で、より豊かに大きく育っていきます。

親が「子どもを産み育てること」が喜びになるとともに、安心して、ゆとりをもって子育てができるような環境をつくるには、地域全体で支援していくことが必要であることから、家庭、地域、関係団体と連携して、「共に育ち、育てあうまちづくり」を目指していきます。

## 基本的な視点

すべての子育て家庭への  
支援の視点

子ども自身の育ちへの  
支援の視点

子育てを地域で支える  
視点

# わくわく子育て夢プランの構成は？★

前期計画では保育サービスの充実が第一に掲げられていましたが、後期計画ではそれに加えて仕事と家庭生活のバランスの調和や、何よりも子どもの権利を守ることが第一に掲げられています。

次代の親となる子どもの発達を支援すること、そのためにどうするべきかという考え方が必要となるのです。また、子どもは守られる対象から自ら育つ対象として、考え方を変えていく必要があります。そのため、

**❶ 基本理念実現のための基本目標、基本施策、施策の方向性を変更しました。**

## わくわく子育て夢プランの構成

